中学3年生

立つ鳥想いを残すプロジェクト
～最高の卒業をむかえるために～

大まかな単元の流れ

投げかけ P → 話し合い計画 P → プロジェクト D → 振り返りアンケート CA

クラスの生徒について
周りの様子をうかがい、自分の考えや思いを表現することに課題がある。
互いの考えを表現し合い、みんなで何かを作り上げる良さを経験させたい。

手立てのポイント①

【目標を共有し PDCA を回す手立て】

最高の卒業とは何かを全員で考える

・ワークシートを使い、どのような気持ちで卒業をむかえたいか考えを整理する。

（内容）

「どのような卒業式にしたいか」

「どのような姿になっていたいか」

「誰に何を伝えたいか」

・ワークシートの回答をもとに卒業までに自分たちにどのような行動ができるかを考える。

（ワークシートの回答）

「楽しい思い出を胸に卒業をむかえたい」

「後輩に運動会や『にじコン』などの学校行事に一生懸命に取り組むことは楽しいことであるというのを伝えたい」

「新入生が入学したときに安心できるように何かを残してあげたい」

これらの思いを共有し、思い出を作る「学級レク」「にじコン（学習発表会）」「立つ鳥想いを残すプロジェクト（後輩に想いを引き継ぐ会）」を中心に、年間で生徒が主体的に PDCA を回していくスタートとした。

手立てのポイント②

【合意形成をスムーズにするための手立て】

これまでの活動を生かす

これまでみんなで作り上げてきた活動の写真や動画を見せて、振り返ることで、自分たちで活動を作り上げるときの手がかりとすることができる。過去の PDCA が次の活動の PDCA につながるようにした。

話し合いの場面・時間の確保

これからの活動に対し見通しを持ち、話し合いや活動する場の確保をしておくことで生徒の活動が円滑に進み、主体的に活動することができる。

学級レクの様子

にじコンクラス練習の様子

手立てのポイント③

【自己肯定感を高め
振り返るための手立て】

定期的に行うクラスアンケートを
生徒と共有する

活動の振り返りと共に年間を通して定期的に行うクラスアンケートの結果を生徒と共有することで、行ってきた活動によりクラスに対する考えが良い方向へ変わっていることを自覚でき、生徒一人ひとりの自己肯定感をあげることができた。

＜アンケート結果　12 月＞

「このクラスが好きだ」
８２.４％　→　９７.１％
「クラスに貢献していると思う」
６１.７％　→　８０％
「友達から認められている一面があると思う」
６７.７％　→　８５.７％

実践を通して見られた生徒の様子

・最初のクラスアンケートで「このクラスが好きだ」「クラスに貢献していると思う」など、全ての項目に対して良好な変化がみられた。また、学級の雰囲気も明るくなった。
・２年次に人前で何かをするのが苦手と話していた生徒が実行委員等に立候補し、中心で活躍する様子が見られた。

実践詳細の二次元コード